

第 4 章

高等部の研究

高等部

I 研究概要

1 高等部の現状

- 1-1 「各教科等を合わせた指導」の授業づくり
- 1-2 学習評価の課題

2 今年度の取組

- 2-1 「合わせた指導」の授業の分析
- 2-2 目標・評価規準を設定するフレームワークの作成

II 実践報告

- 実践報告 7 手工芸班 「校内製品販売会を開催しよう」
- 実践報告 8 農園芸班 「育てて売ろう、おいしい野菜」
- 実践報告 9 メンテナンス班 「仲間と協力をして時間内に担当場所の掃除をしよう」

III 研究のまとめ

1 フレームワーク活用の成果

- 1-1 学習内容の整理から得られた成果
- 1-2 学習評価に関する成果

2 今後の課題

- 2-1 フレームワークの課題
- 2-2 教育課程の課題

「合わせた指導」で取り扱う各教科等の目標・内容の整理、指導計画の必要性

- 2-3 単元計画・評価計画の作成に向けて

IV 資料

- 資料 高等部のフレームワーク

I 研究概要

1 高等部の現状

1-1 「各教科等を合わせた指導」の授業づくり

高等部では、「各教科等を合わせた指導（以下、「合わせた指導」）」として、生活単元学習と作業学習を設定している。生活単元学習は授業名を「生活」とし、学習集団としては、学級、学部全体、課題別グループの3つがある。作業学習は授業名を「作業」とし、3学年縦割りで3つの班を編成している。

(1) 学級・学部の生活単元学習

学級・学部全体で取り組む生活単元学習では、生徒一人一人の現在または将来の生活（家庭・職場・余暇の場）を想定し、実際の・体験的な学習を通して生活力の育成を目指してきた。

学級ごとに行う授業では、同じ学級の仲間が力を合わせて共通の学習課題に取り組む中で、生活に関わる知識・技能を身に付けると共に、自分の役割を果たしたり協力したりする態度を育ててきた。また、校内宿泊学習や、1・2年生合同で行う校外宿泊学習、3年生で実施する修学旅行の事前事後学習等にも取り組んできた。

学部全体では、行事単元を中心に取り組んできた。主な単元としては、新入生歓迎会、校外宿泊学習、生徒会選挙、3年生を送る会に向けての単元等が設定されている。授業は学部全体としての学習だけでなく学級での生活の授業と相互に関連させながら計画する。学部全体で取り組むことで、生活年齢の異なる集団での学習を通して、責任感や集団性、自主性などを培うことをねらいとしてきた。

(2) グループの生活単元学習

卒業後の生活（主に家庭・余暇の場）を見据え、生活単元学習として個々の生活上の課題解決を図り、卒業後の生活に活かせる知識・技能を具体的に身につけることをねらいとして授業を実施してきた。学習集団として、生徒一人一人の課題に応じた3学年の縦割りで、4つのグループを編成している。課題別の編成とすることで個々の課題に迫りやすく、きめ細かい指導を目指している。また、各グループで、保護者に対して実施する「将来像の実現に向けたアンケート」を活用した個々のニーズを踏まえた学習内容を設定し、体験を通して学ぶ学習活動を積極的に取り入れてきた。

(3) 作業学習

学習集団として、手工芸・農園芸・メンテナンスの3班を設け、実態に応じて適性や課題の観点から編成し、縦割り集団として編成している。個々の生徒は一つの班に1年間所属し、3年間で全ての班を経験できるようにしてきた。高等部の作業学習では卒業後の進路を見据えた指導を行っている。生徒の進路希望先は、企業就労から福祉就労まで様々ではあるが、職場における規律や態度、協調性の育成及び手指の巧緻性の向上などに取り組んできた。また、全ての作業班で、報告・連絡・相談をはじめとした、どのような仕事に取り組む上でも必要な働く態度の育成を図ってきた。さらに、これらのすべての作業班で共通する力の育成と共に、各作業班を活かした指導を行ってきた。

手工芸班では製品づくりを通して機械や道具の扱い方や安全への配慮をすること、繊細で丁寧な作業を心がけることなどが挙げられる。農園芸班では屋外を中心とした作業に取り組みながら体力の向上を図ること、天候や生育状況による作業内容や場所の変更に対応する力などを育成することを目指している。メンテナンス班では決められた時間で仕事を完結する力、様々な場所で設備の形状や状態に合わせて柔軟に判断する力などの育成をねらっている（表1）。

表1 各作業班の特色及び主な学習内容

班	特色	主な学習活動
手工芸	・綿密、丁寧な作業 ・安全への配慮が必要（ミシン、アイロン、針など）	・手工芸製品作り ・販売会準備
農園芸	・屋外作業が中心 ・作業の分担、協力	・畑作業 ・販売会準備
メンテナンス	・丁寧な作業 ・求められる質の判断力	・校内清掃 ・校外清掃

1-2 学習評価の課題

生活単元学習、作業学習は「合わせた指導」であるが、高等部ではこれまで「合わせた指導」において各教科等の目標・内容をどのように扱っているのか明確にしてこなかった。評価に関しては、個々に設定する年間指導目標に基づいて各指導形態の目標を設定し、その達成状況を評価しており、どのような各教科等の目標・内容をどの程度学んだかということをはっきりさせる必要があった。

そのため、「合わせた指導」において取り扱っている各教科等の目標・内容を整理し、適切な学習評価を行うことで、教科履修の観点や、各教科等の目標・内容の系統性を踏まえた指導が行えるのではないかと考えた。さらに、取り扱っている複数の教科等の目標・内容を明確にして、「合わせた指導」として行うことで、様々な教科等の視点から授業を組み立てることができるようになり、将来の自立と社会参加に向けて、より効果的な学習指導の充実が図られると考えた。

2 今年度の取組

2-1 「合わせた指導」の授業の分析

まず、ワークシートを用いて各授業の学習内容を各教科等の視点で分析・整理することにした。そして、整理された内容を基に、学習内容及び学習評価についてのフレームワークを作成した。また、今年度の研究では、高等部段階で重要となる進路指導との関連が高い「作業学習」について分析・整理することとした。

(1) 現在の授業における学習内容の分析・整理

各作業班が、現在取り組んでいる学習活動において、どのような各教科等の目標・内容を扱っているか検討した。この分析では、実際に取り組んでいる学習内容を分析し、以下の2点が各班で共通する内容として挙げられた。また、表2は各作業班の分析の過程で出た意見である。

- ・作業活動においては、「職業」の目標・内容が中心になっている。
- ・製品販売の準備や、外部施設の清掃などを行う際は、複数の教科等の目標・内容を合わせた形で目標設定を行う方が、作業活動・学習活動でねらいとしている生徒の姿と整合性をとりやすい。

「作業学習」では、「職業」が学習内容であることを改めて確認した。また、検討を進める中で、畑整備、製品作り、清掃作業などの作業活動に関するものは「職業」として、報告・連絡・相談などの「聞くこと・話すこと」に関するものは「国語」として扱うように整理した。また、各作業班の特色として、手工芸班ではミシンなどを取り扱うことから「家庭科」の視点、農園芸班では農作物を育てることから「理科」の視点、メンテナンス班では清掃計画時に形や数字の内容を取り入れていることから「数学」の視点があることが明らかになった。その一方、分析の過程では、どの教科等の目標・内容として整理すればよいか判断に迷ったり、取り扱う各教科等の目標・内容が多岐にわたることで、ねらいが絞りづらくなってしまったりしたことが課題として挙げられた(表2)。

表2 各作業班での分析・整理を通して出された主な意見

班	①内容を扱っている教科	②挙げられた課題
手工芸	・裁縫や製品づくりなどの活動内容から、主に「職業」「家庭」が扱われている。	・「職業」「美術」「家庭」の、どの教科で取り扱うか迷うものもあった。
農園芸	・年間を通して野菜を育てる作業が中心となることから、「職業」「国語」「理科」の内容が主に扱われている。	・「理科」の内容が含まれているが、一部を取り扱うのか中心となる教科として取り扱うのか。
メンテナンス	・清掃やミーティングなどの活動内容から「職業」「国語」「数学」の項目が多くなった。	・活動内容からどの教科としてとらえるか判断に迷うことがあった。

(2) 学習内容の整理・評価規準設定の枠組み(フレームワーク)の内容の検討

次に、各作業班の分析を踏まえ、学習内容の整理・評価規準を設定する枠組み(以下、フレームワーク)を作成するために必要な内容の検討を行った。

その結果、学習内容を各教科等の目標・内容から分析・整理するにあたっては、「単元の学習活動と中心となる各教科等」→「共通目標」という流れで整理することとし、取り扱う各教科等の目標・内容、段階の表記は、学習指導要領から確認しやすいように記号で記載することとした。また、評価は3段階の記号で示し、評価した生徒の様子については特記事項に簡潔に記入することとした。

目標や評価と合わせて、支援や手立ての内容を記載した方が学習の取り組みの詳細がわかりやすいのではないかという意見も出たが、今年度は学習評価の課題や方法に焦点を絞るため、フレームワークには含めないこととした。

2-2 学習内容の整理・評価規準を設定するフレームワークの作成

学部での検討を踏まえて、各作業班でフレームワークを用いた授業の分析を行った。その結果、目標の立て方について、以下の表3のように、方法1と方法2という異なる設定の考え方が示された。

表3 目標の立て方の違い

	方法1	方法2
共通	・「合わせた指導」のため、各教科等に関する目標は明記せず、「個別の年間指導目標」に関する目標・評価規準を設定する。	・学習活動を分析して、取り扱う各教科等を明示した上で、教科等ごとの共通目標を設定する。
個人	・共通目標を複数立て、生徒の実態や課題に応じた目標を選択し、個人目標とする。	・あらかじめ共通目標を絞り、共通目標から個人の目標を設定する。

学部としての共通の方法を検討するために、上述の2つの方法について、それぞれ授業を行い、その報告をもとに再度検討を行った。その結果、「個別の年間指導目標」から考えた共通目標では、どのような各教科等の目標・内容を取り扱っているかがわかりにくいため、単元の共通目標には取り扱う各教科等の目標・内容から目標を設定することとした。また、本時の共通目標については、単元の共通目標全てではなく、その時間に関係する各教科等の目標・内容に絞り、その共通目標に対して個人目標を設定することとした。

以上の検討を踏まえて、フレームワークを用いて一単位時間の授業について各教科等の目標・内容をどのように扱い、評価しているのかを記すこととした。次頁から各作業班の授業実践を報告する。

単元名「校内製品販売会を開催しよう」

郡司美和・須田淳

■高等部 1～3年 ■作業学習 手工芸班

1 単元について

(1) 単元設定の理由

前単元では、ミシンの扱い方や並縫い、くるみボタンの作り方など、作業活動に必要となる「家庭 B 衣食住の生活 エ(ア)(イ) [知識・技能]」の基礎的な知識や技能を繰り返し学習しながら、販売する製品を作製するために手指の巧緻性を高めていく「職業 A 職業生活 イ(ア)㊦ [知識・技能]」の目標を中心に作業に取り組んできた。また、職場での報告・相談時に活用しやすい定型文や姿勢等の「国語ア (カ) [知識・技能]」の内容を扱いながら定着を図ってきた。作業前後の日記の記入においては、自分の作業成果について理解したり、明確に表現したりするために必要な語句の習得を目指した「国語ア(エ) [知識・技能]」の学習を行いながら、作業を振り返って自分の成長と課題について考える「職業 A イ(イ)㊧ [思考・判断・表現等]」の内容を取り扱ってきた。

本単元では、12月の校内製品販売会に向けてこれまでの学習を深めながら作製・準備活動を進めた。製品販売会に向けたカタログを作製する活動では「情報 B コミュニケーションデザインと情報デザイン イ(イ) [思考・判断・表現等]」の内容を取り入れ、製品数を表にまとめる活動等では「数学 D ア [知識・技能]」の内容を扱った。こうした各教科等の内容を体験的に学習することのできる販売会の準備を単元として設定することで、各教科等の学びを卒業後の生活に生きる力として身につけることをねらいとして取り組んだ。

(2) 単元計画〈全 40 時間〉

1次 (20 時間)	販売に向けて製品をたくさん作ろう	
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ■50周年記念式典に向けた記念品作製 <ul style="list-style-type: none"> ・裁縫：マスコットストラップ ■校内製品販売会・校外販売(委託)に向けた製品作り <ul style="list-style-type: none"> ・裁縫：マスコットストラップ ・ミシン：雑巾、ブックカバー ・スウェーデン刺繍 ・くるみボタン：オーナメント、ストラップ・ブローチ加工 ・スタンプ (ブックカバー、ティッシュケース) ・アイロン (スタンプ定着、マスコット返し口閉じ) 	含まれる各教科等 職業 国語 家庭 数学
2次 (4 時間)	出店準備をしよう	
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ■外部出店に向けた販売準備 <ul style="list-style-type: none"> ・ラベルデザイン ・カタログ(写真撮影・紹介文)作成 ・製品の価格決め ・ラッピング ■校内製品販売会に向けた製品作り 	含まれる各教科等 職業 国語 家庭 数学 情報

3次（10時間） 本時3、4／10	校内製品販売会の準備をしよう
学習活動 ■校内製品販売会に向けた製品づくり ■校内製品販売会の準備 ・ラッピング ・値札シール貼り ・ディスプレイ計画	含まれる各教科等 職業 国語
4次（6時間）	次回の販売製品を考えよう
学習活動 ■販売の振り返り、3学期の販売に向けて ・販売数・売上の確認 ・三学期の製品企画に向けたデザイン・作製の練習	含まれる各教科等 国語 数学 美術

2 本時の目標・評価規準の設定、その評価

(1) 本時の共通目標

【職業】 ・作業の確実性・巧緻性等を高め、状況に応じて作業することができる。
【国語】 ・敬語を理解して使うことができる。

(2) 本時の学習活動・学習内容

学習活動	中心となる各教科等
【製品作り】 ○ミシン(ブックカバー) ○くるみボタンの小物作り(Xmas オーナメント) ○ラッピング	国語 職業

(3) 個別の目標・評価規準・評価

◎…達成 ○…概ね達成 △…未達成

	学習活動	個別の目標・評価規準	評価	特記事項 (個人内評価含む)
	個別の教科等の内容・段階			
C	○ミシン 職業 高1段階Aイ(ア)㊦ 〔知識・技能〕	補助線の上をミシンがけしている。	○	真っすぐ縫うことはできたが、補助線から1mm程ずれた箇所があった。
	○販売準備(仕分け・ラッピング) 職業 高1段階Aイ(ア)㊦ 〔知識・技能〕	決めた時間内作業を継続している。	○	体調確認の言葉がけを受けながら、作業を継続することができた。
	○報告・連絡・相談 国語 高1段階ア(カ) 〔知識・技能〕	相手の立場に応じた敬語を使っている。	◎	教員や先輩に対し敬語で話すことができた。

D	○ミシン 職業 高1段階Aイ(ア)㊦ 〔知識・技能〕	補助線に沿って、正確にミシンがけをしている。	◎	補助線の上をていねいに縫うことができた。
	○販売準備 (仕分け・ラッピング) 職業 高1段階Aイ(ア)㊦ 〔知識・技能〕	手順書通りにラッピングを正確に行っている。	○	手順書のみでの理解は難しかったが、実際にやり方を見せることで正確に行うことができた。
	○報告・連絡・相談 国語 高1段階ア(カ) 〔知識・技能〕	相手の立場や場面に応じた敬語を使っている。	○	先輩とのやり取りに口語が出るがあったが、報告場面では敬語を使うことができた。
F	○販売準備(仕分け・ラッピング) 職業 高1段階Aイ(ア)㊦ 〔知識・技能〕	手本を見てラッピングを正確に行っている。	○	ビニール袋に商品を入れる際に向きを間違えることがあったが、ほぼ正確に行うことができた。
	○くるみボタンの小物作り 職業 高1段階Aイ(ア)㊦ 〔知識・技能〕	適量のボンドで接着している。	△	グルーガンを使用したが強握るため、グルーが出すぎることがあった。
	○報告・連絡・相談 国語 高1段階ア(カ) 〔知識・技能〕	相手の立場に応じた敬語を使っている。	○	報告するときはいねいな言葉を使って話すことができていた。
I	○くるみボタンの小物作り 職業 高1段階Aイ(ア)㊦ 〔知識・技能〕	補助線や○印の上に接着剤を塗り、正確に製品を作っている。	○	○印からずれて接着することも数個あったが、縁にボンドを塗る作業では写真を見て理解し作業できた。
	○ミシン 職業 高1段階Aイ(ア)㊦ 〔知識・技能〕	返し縫いの印や補助線に沿ってミシンをかけ、正確に製品を作っている。	△	指定の角度に合わせることを意識できず、線からずれてしまった。
	○報告・連絡・相談 国語 高1段階ア(カ) 〔知識・技能〕	教員に敬語を使って報告・相談している。	△	完了報告は適宜行うことができたが、相談場面では止まってしまい、教員の促しが必要だった。
M	○くるみボタンの小物作り 職業 高1段階Aイ(ア)㊦ 〔知識・技能〕	補助線や○印の上に接着剤を塗り、正確に製品を作っている。	◎	縁にボンドを塗る作業では写真を見て該当箇所を理解し作業できた。
	○ミシン 職業 高1段階Aイ(ア)㊦ 〔知識・技能〕	返し縫いの指示や補助線に沿ってミシンをかけ、正確に製品を作っている。	△	集中が切れると線からはみ出すことがあった。針を抜いた状態で布の向きを変えたため線からずれてしまった。

	○報告・連絡・相談 国語 高1段階ア(カ) 〔知識・技能〕	丁寧な言葉で報告や相談を行っている。	○	詳しく内容を話す時に口語になったが、報告練習で取り組んでいる言い回しを使用することはできた。
	○販売準備(仕分け・ラッピング) 職業 高1段階アイ(ア)㊤ 〔知識・技能〕	自身のメモや見本をもとに、向きに気をつけて正確に包装している。	○	手順書の写真を見ながら教員と複数回確認した後は、正確に包装することができた。
P	○くるみボタンの小物作り 職業 高2段階アイ(ア)㊤ 〔知識・技能〕	くるみボタンの配色や個数等の指示に応じて作業し、正確に製品を作っている。	○	グルーの接着不足によるやり直しが複数個あったが、メモを確認しながら作業することはできた。
	○報告・連絡・相談 国語 高2段階ア(カ) 〔知識・技能〕	詳しい報告を行う際も、敬語を用いてやり取りしている。	◎	指示の確認ややり方の相談について、敬語でやり取りすることができた。
T	○販売準備(仕分け・ラッピング) 職業 高1段階アイ(ア)㊤ 〔知識・技能〕	見本や手順書をもとに、向きに気をつけて正確に包装している。	△	柄の上下について手順書の注意書きに気づかず、やり直しが複数回あった。
	○くるみボタンの小物作り 職業 高2段階アイ(ア)㊤ 〔知識・技能〕	貼り付けたフェルトの縁に沿って正確に切り抜いている。	◎	指示を理解し、正確に切り取ることができた。
	○報告・連絡・相談 国語 高2段階ア(カ) 〔知識・技能〕	仲間と作業準備を進める際、敬語を用いて相談している。	◎	自らが中心となり、敬語を用いて分担を相談しながら準備を進めていた。
X	○くるみボタンの小物作り 職業 高1段階アイ(ア)㊤ 〔知識・技能〕	○印の上に接着剤を塗り、正確に製品を作っている。	△	○印を意識して接着することはできたが、グルーの使用量が多く、はみ出しが多かった。
	○販売準備(仕分け・ラッピング) 職業 高1段階アイ(ア)㊤ 〔知識・技能〕	袋とラベルを、指定箇所ではちキス止めしている。	◎	初めての作業だったが、折線と印について実演を交えた説明を受けた後、一人で正確に作業することができた。
	○報告・連絡・相談 国語 高1段階ア(カ) 〔知識・技能〕	場面に応じた敬語を使っている。	○	手を挙げて敬語で報告することができた。相談のやり取りでは口語が出てしまった。

3 フレームワークを用いた指導の実際

(1) 指導の実際と学習評価

【導入】

作業開始前には、本時の作業担当と目標を個々に確認し、日誌の記入を行った。この活動では、国語ウ(イ)㊦〔知識・技能〕「文字の形を整えて書くこと」と、職業 A イ(ア)ア〔知識・技能〕「職業生活に必要とされる実践的な知識及び技能を身に付けること」をねらっている。

作業日誌 月 日 ()			
前半		後半	
◎=よくできた ○=できた △=できなかった、むずかしかった		自分	先生
今週のもめて	きれいな製品を、指をよく見て作ろう		
今日の目標			
できなこと・気付けたいこと			
先生から			

日誌記入後のミーティングで行う報告練習では毎時、国語 高1 段階ア(イ)〔知識・技能〕にある敬語を使ったやり取りを指導している。本時ではその後、教員から校内製品販売会までの日程と必要な準備について説明した上で、販売を意識した正確な製品作りの大切さを再度確認した。

【展開】

作業では 職業 高1 段階 A イ(ア)㊦〔知識・技能〕「作業の確実性や持続性、巧緻性等を高め、状況に応じて作業すること」を目標として「ミシン」「くるみボタンの小物づくり」「ラッピング」の活動を設定し、校内製品販売会に向けて不足している製品の作製や販売準備を行った。担当する作業内容は前半と後半で役割を入れ替えた。そうすることで、状況に応じた準備や片付けに取り組む機会や様々な作業や製品作りの経験を増やすことができる。同時に、長時間同じ作業をすることに意欲をもち続けにくい生徒への配慮も兼ねている。



通常、教員三人がそれぞれ作業担当をもち指導を行っているが、実践日は二名体制での指導となり、必ずしも教員が近くにいる状況ではなかった。ミシンがけには応援の教員が指導に入ったが、縫い線への意識が薄れている生徒が目立ち、特に注意喚起する必要があった。継続して作業を行うことを苦手とする M には得意とするミシンの活動を割り振ったり、報告のタイミングを多めに設定したりして活動



に動きが伴うようにしたが、他の対応をしている教員を待つうちに報告することも忘れてしまうことが目立った。一方、返事を待つことを苦手としていた X は挙手して「先生、終わりました」と丁寧な言葉で報告した上で教員の対応を待つことができ、望ましい言葉と態度の習得を見取ることができた。初めてラッピング作業に取り組んだ D は、写真や見本製品のみでは袋詰め向きなどを理解することが難しかったため、教員と一緒に複数回同じ作業に取り組んだ。何度か繰り返して段取りを概ね覚えた後は、手順書の見方も理解し自身で確認しながらラッピング作業を進めることができた。

【振り返り・まとめ】

片付け・清掃後は、作業日誌の目標の達成度評価を記号(◎○△)と文章で記入し、ミーティングで発表した。書くことに難しさのある I や X は、教員と活動を振り返りながら、ひらがな・カタカナの確認を行いつつ短い文で書くようにした。C は本時の目標を適切に振り返ることができていた。P は次回の課題に気づくことができていた。

翌週に控えた校内製品販売会について教員から話をした際には、「いよいよですね」「買ってもらえるかな」「もっと丁寧に作らなきゃ」など、期待と不安を口にしながら次回作業への意欲を高めていた。

(2) 学習評価をもとにした指導の振り返り

補助線を意識することやミシンのストッパー・針の操作については、実践翌日の授業では全員が目標を達成することができた。以上のことから、当日が久しぶりの作業学習だったことや担当教員の不在が影響していたことが考えられた。報告・相談についての目標を立てた生徒の複数が未達成評価となったことについては、近くに教員がいないという状況に対応できなかったことが原因と考えられる。通年、生徒自身の力で取り組み自信をつけることをねらい、毎回の活動の流れを決めて見通しをもてるようにしたが、職業生活へつながる力を育成することを考えると、環境に変化をつけて多様な状況に対応できるようにしていく必要があるとも感じた。

4 フレームワーク活用の成果と課題

■ 授業の学習内容の整理

【成果】

- ・「国語」の段階的な指導を意識できるようになった。学習指導要領を見ながら確認できるので、教員間でも共通認識しやすかった。
- ・学習指導要領における教科の内容として学習活動を整理したことで、ミシンや裁縫など「家庭」の活動、販売に関連した「数学」「情報」の活動など、様々な教科の要素があることが明確になった。
- ・「職業」と「国語」の関連性が意識できた。今回目標とした「国語」ア(イ)・ア(カ)〔知識・技能〕「多様な関係場面での敬語を使ったコミュニケーション」は「職業」イ(ア)㊦〔知識・技能〕「職業に必要な態度に関する事などに掛かる知識・技能」に通じる内容であり、教科間で連動していると感じた。
- ・体験的な活動の中で「国語」や「数学」の学習に取り組む機会をもつことができ、「合わせた指導」の良さを再確認できた。
- ・ミシンを使用するから「家庭」の活動なのか、「職業」の課題を設定するための道具としてミシンを使用しているのかなど、活動をどの教科で捉えるかによって、目標の方向性が変化することがわかった。

【課題】

- ・各教科等の目標・内容で活動を設定することのできる構成や視点をもつことが重要だと感じた。
- ・今後、各教科等の目標・内容を明確にねらった学習として「作業学習」を組み直していく場合、体系的・組織的に学習内容や目標の設定を一覧にして残しておく、授業担当が変わった時に引き継ぎやすい。
- ・「作業学習」での各教科等の学習をより効果的に行っていくためにも、他の授業と連携していく必要があると考える。

■ 学習評価

【成果】

- ・各教科等の学習評価を行うことで、個々の生徒が今伸ばすべき各教科等の目標を明確に意識できた。
- ・各教科等の目標を個々に立てて整理したことで、それぞれの力を伸ばすための指導を段階的に捉え直す視点を持つことができた。

【課題】

- ・生徒個々の各教科等の目標到達度について、記録を残すことで生徒の引継ぎに生かしていくことができるのではないか。
- ・「作業学習」では、単元を通じて製品作りに繰り返し取り組む中で、目標の設定と到達度の評価の仕方を段階的に変化させていく。評価の到達度が文章として明示されていると共通理解しやすい。

単元名「育てて売ろう、おいしい野菜」

綿谷衛・柿沼隆太

■高等部 1～3年 ■作業学習 農園芸班

1 単元について

(1) 単元設定の理由

前単元では、自分たちで育てた夏野菜の無人販売するために、土づくりから種まき・苗植え、畑整備（除草、水やり等）、収穫、販売といった一連の工程を長期に渡って行った。「農作業へやりがいをもつ」「農園芸班の一員として協力して作業することの重要性を実感する」「自分から準備、片付け等に取り組む」といったことをねらいとし、職業の「A 職業生活ア（ア）、（イ）、（ウ）」の内容を取り扱ってきた。また、「報告や相談時の言葉の使い方やタイミングについて理解する」ことをねらいに、国語の「知識及び技能 ア（カ）」を取り扱ってきた。

本単元では、12月に行われる保護者向けの製品販売会及び地域向けの無人販売のために、前単元で植えたさつま芋や里芋の管理・収穫を行ったり、大根の種まきから収穫を行ったりした。「自分の力を発揮しながら与えられた役割に取り組む」「職場で求められる作業態度で与えられた役割に取り組む」「製品販売会に向けて主体的に作業する」ことをねらいとし、職業の「A 職業生活イ（ア）㉠、（イ）㉡」の内容を取り扱った。また、チームとして作業を連携・協力しながら進める中で「職業生活において必要となる言葉の使い方を理解して使う」「伝えたい内容が相手に分かりやすくなるように報告、相談する」「自分から報告、相談しながら作業する」といった力を高めるために、国語の「知識及び技能ア（カ）」「思考力、判断力、表現力等 A イ」の内容を取り扱い、職業生活に必要な国語の力を確実に身に付けることができるようにした。

(2) 単元計画〈全46時間〉

1次（10時間）	大根の種まきをしよう	
学習活動	・夏野菜の撤去 ・除草 ・畝立て ・マルチ張り ・種まき	含まれる各教科等 職業 国語
2次（14時間）	販売に向けて準備しよう	
学習活動	・畑の整備（除草、水やり） ・ラベンダーのサシェづくり（雨天時）	含まれる各教科等 職業 国語
3次（8時間）本時1、2/8	さつま芋・里芋を販売しよう	
学習活動	・さつま芋の収穫 ・里芋の収穫 ・販売準備（計量、袋詰め等） ・販売の振り返り ・畑整備	含まれる各教科等 職業 国語
4次（14時間）	大根を販売しよう	
学習活動	・大根の収穫 ・販売準備（大根洗い、無人販売の設置等） ・販売の振り返り ・畑整備	含まれる各教科等 職業 国語

2 本時の目標・評価規準の設定、その評価

(1) 本時の共通目標

<p>【職業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 与えられた役割において注意点を守って作業したり、続けて作業したりすることができる。 安全に気をつけながら、さつま芋の収穫作業をすることができる。 <p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分から報告したり、相談したりしながら作業することができる。
--

(2) 本時の学習活動・学習内容

学習活動	中心となる教科
さつま芋の収穫 ・さつま芋のつる運び（運び、つる切り） ・さつま芋の掘り起こし	職業 国語

(3) 個別の目標・評価規準

◎…達成 ○…概ね達成 △…未達成

	学習活動	個別の目標・評価規準	評価	特記事項 (個人内評価含む)
	個別の教科等の内容・段階			
E	○さつま芋のつる運び（運び） 職業分野 中2段階 A イ(ア)㊦ 〔知識・技能〕	作業終了の指示があるまでさつま芋のつるを所定の場所まで運び続けている。	○	継続して作業に取り組む姿を認めた言葉かけを受けながら、作業終了の指示があるまで継続して取り組むことができた。
	○さつま芋のつる運び（運び） 職業分野 中2段階 A イ(イ)㊧ 〔思考・判断・表現〕	自分から指差し確認をしながら、道路を横断している。	◎	言葉かけを受けなくても横断前に止まり、指差し確認することが毎回できた。
	○さつま芋のつる運び（運び） 国語 中2段階ア(カ)〔知識・技能〕	疲れた時や水分補給したいときに、自分の気持ちを伝えている。	-	本時において評価場面がなかった。
G	○さつま芋のつる運び（運び） 職業分野 中2段階 A イ(ア)㊦ 〔知識・技能〕	作業終了の指示があるまでさつま芋のつるを所定の場所まで運び続けている。	◎	言葉かけを受けることなく、さつま芋のつる運びを作業終了の指示があるまで継続することができた。
	○さつま芋のつる運び（運び） 職業分野 中2段階 A イ(イ)㊧ 〔思考・判断・表現〕	横断する前に立ち止まり、指差し確認してから道路を横断している。	○	作業開始前に個別に手本を示して確認したことで、毎回、横断する際に立ち止まって指差し確認を行うことができた。
	○さつま芋のつる運び（運び） 国語 中1段階ア(カ)〔知識・技能〕	さつま芋のつるを運ぶ際、教員のそばに来て、報告しながらさつま芋のつるを運んでいる。	○	一回目は報告する姿が見られず、報告するタイミングの確認が必要であったが、二回目からは教員に報告できた。

J	○さつま芋の掘り起こし 職業 高1段階 Aイ(ア)㊦ 〔知識・技能〕	指示された範囲のさつま芋の収穫を取り残しなく行っている。	○	掘り起こし回数を重ねるごとに、自ら掘り残しがないか確認するようになり、さつま芋を掘り残しなく収穫することができるようになった。
	○さつま芋のつる運び（つる切り） ○さつま芋の掘り起こし 職業 中2段階 Aイ(イ)㊧ 〔思考・判断・表現〕	作業している仲間のそばを通る際、「通ります」と声をかけている。	○	声をかけて移動することを指摘された後は、「通ります」と言う姿が見られた。
	○さつま芋のつる運び（つる切り） ○さつま芋の掘り起こし 国語 中2段階ア(カ)〔知識・技能〕	指示されたことに対して、自分から「わかりました」と返答している。	○	指示内容を簡潔にしたことで、指示された際に一度で「わかりました」と返答する姿が見られた。
L	○さつま芋のつる運び（つる切り） 職業分野 中2段階 Aイ(ア)㊦ 〔知識・技能〕	指示された長さにさつま芋のつるを切って、運びやすい長さになっている。	◎	長さの見本を実物で示したことで、切る際の長さの理解が深まり、指示された長さに切ることができた。
	○さつま芋のつる運び（つる切り） 職業分野 中2段階 Aイ(イ)㊧ 〔思考・判断・表現〕	はさみをバケツの中に入れて移動したり、作業から離れる際には、バケツの中にしまったりしている。	○	準備の際には、はさみをバケツに入れて移動ができたが、作業中においてはその都度、言葉かけが必要であった。
	○さつま芋のつる運び（つる切り） ○さつま芋の掘り起こし 国語 中1段階ア(カ)〔知識・技能〕	教員のそばに来て、相手の名前を言ってから報告や相談している。	○	作業している位置から教員の名前を呼んで報告することがあり、そばに来て報告するように確認が必要であった。
O	○さつま芋のつる運び（つる切り） 職業 高1段階 Aイ(ア)㊦ 〔知識・技能〕	移動やさつま芋のつるを切る際に、自ら手早さを意識して取り組んでいる。	○	言葉かけを受けることで作業速度を上げて、つる切りに取り組む姿が見られた。
	○さつま芋のつる運び（つる切り） 職業 高1段階 Aイ(イ)㊧ 〔思考・判断・表現〕	仲間のそばで鎌を使用する際、作業を始めることを周知してから行っている。	◎	周囲の様子を確認し、作業開始前の周知を行いながらつる切りの作業をすることができた。
	○さつま芋のつる運び（つる切り） ○さつま芋の掘り起こし 国語 高1段階ア(カ)〔知識・技能〕	分からないことがあった場合、自分から教員のそばに行き、簡潔に相談している。	○	話の内容が長くなってしまったが、作業方法についてわからないことを自分から相談することができた。

R	○さつま芋の掘り起こし 職業分野 中2段階 A イ(ア)㊦ 〔知識・技能〕	指示された範囲のさつ ま芋を取り残しなく収 穫している。	○	掘り残しなく収穫すること を理解し、集中して掘り 起こしに取り組み、指 示された範囲のさつ ま芋を掘り残しなく 収穫することができた。
	○さつま芋のつる運び（運び） 職業分野 中2段階 A イ(イ)㊧ 〔思考・判断・表現〕	横断する前に立ち止 まり、指差し確認を してから道路を横断 している。	○	指差し確認をしながら 動き出すことはあつ たが、横断前に立ち 止まって指差し確認 する姿が見られた。
	○さつま芋のつる運び（運び） 国語 中1段階ア(オ)〔知識・技能〕	さつま芋のつるを 所定の場所まで運ぶ 際、教員のそばに 来て報告している。	○	畑から所定の場所ま での動線上に教員が いたことで、報告し ながらつる運びを する姿が見られた。
S	○さつま芋のつる運び（つる切り） 職業 高1段階 A イ(ア)㊦ 〔知識・技能〕	指示された長さに さつま芋のつるを 切って、運びやすい 長さになっている。	△	つるの切り方を動作 で示したものの、 つるを切る長さの 理解につながらず、 指示された長さで 切り続けることが 難しかった。
	○さつま芋のつる運び（つる切り） さつま芋の掘り起こし 職業 高1段階 A イ(イ)㊧ 〔思考・判断・表現〕	作業している仲間 のそばを通る際、「 通ります」と声を かけながら作業 している。	○	作業開始前に声を かけることを個別 に確認したことで、 自ら「通ります」と 声をかける姿が 見られた。
	○さつま芋のつる運び（つる切り） ○さつま芋の掘り起こし 国語 中2段階ア(オ)〔知識・技能〕	指示された作業 量を終えた際、自 分から教員のそば に来て報告してい る。	○	報告するタイミン グを具体的に確 認したことで、指 示された作業量を 終えると自ら報 告することができ た。
W	○さつま芋の掘り起こし 職業 高1段階 A イ(ア)㊦ 〔知識・技能〕	さつま芋を土から 掘り出す際、さつ ま芋を折らずに 取り残しなく収 穫している。	◎	手本を示したこと によって掘り 起こし方を理解 することができ、 さつま芋を折ら ずに、また取り 残しなく収穫 することができ た。
	○さつま芋のつる運び（運び） 職業 高1段階 A イ(イ)㊧ 〔思考・判断・表現〕	指差し確認する 方向を見て、安 全を確認して から道路を横 断している。	○	うつむいた姿勢 で指差し確認 することが数回 あったが、言 葉かけに応じて 顔をあげて指 差し確認する ことができた。
	○さつま芋のつる運び（運び） ○さつま芋の掘り起こし 国語 中1段階ア(オ)〔知識・技能〕	指示された範囲 の作業を終えた 時に、自分から 何が終わった のか動作を交 えながら報告 している。	◎	さつま芋を掘 っている動作 をしながら、 掘り起こしが 終わったこと を自分から 報告する ことができた。

3 フレームワークを用いた指導の実際

(1) 指導の実際と学習評価

【導入】

導入では、本時の目的である「販売するさつまいもをすべて収穫する」について、本時の流れ及び作業内容の説明を通して確認した。その際に、収穫したさつまいもを販売すること、消費者（保護者）に喜んでもらうことについて話し、与えられた役割において注意点を守って作業したり、続けて作業したりするための動機づけを高められるようにした。安全に気をつけながらさつまいもの収穫作業をすることが意識できるように、作業時の注意点を伝える中で、実際に道路を横断する際の指差し確認を3回行った。さつまいもを手で掘り出せない時や傷つけてしまった場合等を例に挙げ、報告や相談が必要な場面やタイミングが理解できるように、また見通しをもって報告や相談がしやすくなるように話をした。

【展開】

まず初めに、さつまいもを掘り起こす準備（さつまいもを掘り起こしやすくするためのつる切り、つるを所定の場所までバケツで運びやすくするためのつる切り、さつまいものつるを所定の場所まで運ぶ）を行った。作業内容の中でも特に喜びが得やすく、作業への意欲がより高まりやすい収穫日ということもあり、手を休めることなくつる運びを続けたり、つるを運びやすいように短く切ったりする姿がほとんどの生徒に見られた。また、つるを所定の場所まで運ぶ際には、どの生徒も道路横断時に必ず指差し確認を行い、安全に気をつけながら作業することができていた。導入時に、安全に気をつけて作業することを意識できた生徒が複数いたことで、他者の行動を参考にする生徒においても作業が始まると指差し確認することへ注意が向き、全体で安全に気をつけながら作業することができた。

つる切りを担当する生徒については、お互いの距離が近い場所での作業のため状況に応じて言葉かけをする必要があった。生徒の中には道具を準備する際、はさみの取り扱いについて自ら確認にきた生徒がいた。安全に気をつけながら作業することへの意識の高まりとともに、自ら実践しようとする姿を見ることができた。

さつまいもの収穫においては、多くの人に販売できるように、また喜んでもらえるように取り残しなく掘り起こすこと、導入時に伝えた内容をもう一度伝えながら自分から報告や相談することを、全体で確認してから行った。どの生徒もさつまいもの掘り起こしに夢中になるとともに、「大きいものが取れました！」「やったあ！」等、喜びを表現しながら意欲的に取り組む姿が見られた。掘り起こしの際にさつまいもを折ってしまった生徒も数名いたが、その旨を自分から報告することができた。また、掘り起こしに時間を要している生徒においては、教員がそばに来た際に報告する姿が見られた。

【振り返り・まとめ】

収穫したさつまいもを実際に見ながら本時の目的である「販売するさつまいもをすべて収穫する」ことについて振り返る場面を設定したことで、本時の成果が視覚的に分かりやすく、どの生徒も目的を達成したことの実感と喜びを得ることができていたようであった。「たくさん取れた！」「すごい量ですね！」等といった言葉や拍手で喜びを表現する姿が見られる中で、「たくさん買ってもらえるといいなあ」「全部、売れるといいなあ」といった言葉のやり取りも見られ、販売への期待感や意欲が高まっていることがうかがえた。何のためにさつまいもを育ててきたのか、本時で収穫したのかを理解して作業することができていたことが、振り返りを通して生徒たちの言動から伝わってきた。



(2) 学習評価をもとにした指導の振り返り

本時においては、これまでの取組の成果を実感できる作業内容であり、与えられた役割において注意点を守って作業したり、続けて作業したりする姿が個々に見られた。これまで個別に個々の目標を確認しながら取り組み続けてきたことで、自分の力を発揮しながら与えられた役割に取り組む力の高まりが生徒一人一人にうかがえた。多くの作業場面で相手と一緒に作業したり、教員が生徒と同じ立場と一緒に作業したりするため、互いの言動を意識したり、真似したりしながら取り組む姿が見られた。全員で安全に気をつけながら作業をする姿につながり、職場で求められる作業態度が身につけてきていることがうかがえた。自分から報告したり、相談したりする力においては、決まった言葉で伝えられるようになってきているが、個別の言葉かけや場面設定をする必要がある。そのため、丁寧語を使っての返答や簡潔に進捗状況を伝えたりする等、国語における知識及び技能や思考力、判断力、表現力等について、さらに取り入れながら指導していく必要があると考える。

4 フレームワーク活用の成果と課題

■ 授業の学習内容の整理

【成果】

「国語」で取り扱っている内容（言葉遣い）について、「作業学習」において、より体験的かつ実践的に学ぶことができると改めて感じた。「職業」における、職場で求められる作業態度（言葉遣い、報告、相談等）とのつながりが密接であり、「国語」と合わせて指導することで、知的障害の特性を踏まえた指導として有効であるとともに効率的でもあると感じた。さらに、産業現場等における実習と関連付けながら発展的に学ぶことができるよさがあると感じた。

【課題】

各教科の視点で授業の組み立てを見ていくと、「国語」以外にも「理科（A生命）」について取り扱っている場面が単元全体を通して随所に散りばめられている。しかし、本時の共通目標として取り扱う授業展開をしていないことが多くあることに気づいた。屋外で作業ができない雨の日に、「理科（A生命）」の内容を中心に授業を組み立てることが必要であると感じた。また、単元全体を通して「理科」の一部の内容を取り扱い評価するのか、または他の合わせた指導（生活単元学習）で中心となる教科として取り扱うのか整理していくことが必要であると感じた。

■ 学習評価

【成果】

個別の教科等における内容・段階を設定する際、個別の指導計画に記述されている実態を確認する機会になり、改めて生徒の成長や実態について把握することができた。また、取り扱った教科の内容や目標と本校独自の年間指導目標との関連性や本時の共通目標と個別の教科等の内容・段階との関連性について再考するよい機会となった。

【課題】

本フレームワークは、本時における個別の各教科等の目標・評価規準について到達度を3つの記号で示すとともに、特記事項において評価の根拠が伝わるように示すことができるよさがある。その一方で、本時の評価だけでは各教科等の目標・内容がどの程度習得できたか把握することに難しさがある。そのため、単元全体を通して身につけたい各教科等の目標・内容の到達度を表記する方法を探る必要があると感じた。

実践報告 9

単元名「仲間と協力をして時間内に担当場所の掃除をしよう」

齊藤可奈子・岩淵睦・谷内田怜

■高等部 ■作業学習 メンテナンス班

1 単元について

(1) 単元設定の理由

前単元では清掃内容や清掃場所に合わせた「道具の選び方や使い方」「清掃の仕方」を学び、生徒が一人で担当場所の清掃を行う中で、道具の準備や片付け、清掃方法や手順を身に付けてきた。本単元では、「仲間と協力をして時間内に担当場所の清掃を行おう」をテーマとして、作業工程を分担して、自分の役割を果たすことや生徒同士が協力をしながら共同で作業に取り組める力を身に付けることをねらいとした。学習内容としては主に職業の「A 職業生活 ア 勤労の意義 (イ) (ウ)」「A 職業生活 イ 職業 (ア) (イ)」の内容を取り扱う。社会では、仲間と協力をして仕事に取り組む力や社交性が必要となってくる。作業を進める上で仲間とやりとりする時や活動の振り返りをする時等に「国語」の内容を併せて取り扱うことで、実際の体験を通して各教科等の力を身に付けることができると考えた。

(2) 単元計画 〈22 時間〉

1 次 (4 時間)	清掃手順や方法について思い出そう
学習活動 清掃チェック 掃き掃除 (廊下・階段) 窓掃除 (校長室・集会室) 拭き掃除 (校長室) モップ掃除 (高等部廊下・階段) 掃除機 (正面玄関・保健室前廊下) 振り返り	含まれる各教科等 職業 国語
2 次 (12 時間) 本時 4 / 1 2	チームの中で分担して清掃をしよう「日常清掃」
学習活動 分担する場所決め 分担場所の清掃活動 (班で協力して終わらせる) 振り返り	含まれる各教科等 職業 国語
3 次 (6 時間)	普段行わない場所の清掃をやろう「定期清掃」
学習活動 快適な空間を保つためにエアコン・蛍光灯・水道周り等のメンテナンスを行う 高等部棟・生活訓練棟「しいの木ハウス」の清掃を行う 振り返り	含まれる各教科等 職業 国語

2 本時の目標・評価規準の設定、その評価

(1) 本時の共通目標

<p>【職業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割を果たすことができる。 ・担当した作業について振り返ることができる。 <p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会生活（職業生活）における場面に応じた言葉の使い方ができる。
--

(2) 本時の学習活動・学習内容

学習活動	中心となる教科の内容
各班の中で分担して清掃をしよう「日常清掃」 <ul style="list-style-type: none"> ・分担場所決め ・分担場所の清掃活動 ・活動報告・振り返り 	職業 国語

(3) 個別の目標・評価規準

	○学習活動 ・個別の教科等の内容・段階	個別の目標・評価規準	評価	特記事項 (個人内評価等含む)
A	○清掃活動 職業 高1段階 A ア(イ) 〔知識・技能〕	正しい手順で自分の担当場所を最後まで清掃ができる。	△	手順を教員に確認しながら清掃をしていた。
	○清掃活動 国語 中1段階 ア(カ) 〔知識・技能〕	「です」「ます」を使って報告や連絡ができる。	○	「です」「ます」は使えていたが、必要な報告はなかった。
	○活動の振り返り 職業 高1段階 イ(イ)㊦ 〔思考・判断・表現等〕	「できたこと」「課題」を明確に書くことができる。	○	できたことは書いていたが課題は書いていなかった。
B	○清掃活動 職業 高1段階 A ア(イ) 〔知識・技能〕	正しい手順で自分の担当場所を最後まで清掃ができる。	○	手順を教員に確認しながら清掃をしていた。
	○清掃活動 国語 高1段階 ア(カ) 〔知識・技能〕	「です」「ます」を使って報告や連絡ができる。	◎	「です」「ます」を使って丁寧な言葉で報告や相談ができていた。
	○活動の振り返り 職業 高1段階 イ(イ)㊦ 〔思考・判断・表現等〕	「できたこと」「課題」を明確に書くことができる。	○	未達成のことも「できた」と報告していたが、できたことは書けた。
H	○清掃活動 職業 高1段階 A ア(イ) 〔知識・技能〕	時間内に担当箇所の清掃を完了ができる。	◎	残り時間を確認しながら作業を行っていた。
	○清掃活動 国語 高1段階 ア(カ) 〔知識・技能〕	「です」「ます」を使い、報告や連絡、相談ができる。	△	普段遣っている話し言葉での報告や相談が多かった。

	○活動の振り返り 職業 高1段階イ(イ)㊦ 〔思考・判断・表現等〕	作業手順や役割が指示通りできたか振り返り、成果や課題に気が付くことができる。	○	振り返り時に成果を振り返ることができたが、課題は自ら見つけられなかった。
K	○清掃活動 職業分野 中2段階Aア(イ) 〔知識・技能〕	作業全体の中で自分の役割を理解し作業を行うことができる。	△	一つ一つの作業に言葉かけが必要だった。
	○清掃活動 国語 中1段階ア(カ) 〔知識・技能〕	相手の話を聞いてから「です」「ます」を使い報告・相談ができる。	○	相手の話を聞いてから報告ができることもあった。
	○活動の振り返り 職業 高1段階イ(イ)㊦ 〔思考・判断・表現等〕	担当した作業内容を振り返り、「できたこと」を書くことができる。	○	自分が行った活動を書くことができるが、行っていないことを書くこともあった。
	○清掃活動 職業分野 中2段階Aア(イ) 〔知識・技能〕	作業全体の中で自分の役割を理解し作業を行うことができる。	○	作業手順や作業内容を間違えることなく行えたが、道具の準備忘れがあった。
N	○清掃活動 国語 中1段階ア(カ) 〔知識・技能〕	伝わりやすいようゆっくりと「です」「ます」を使って報告や相談ができる。	△	普段の言葉と敬語が混ざっていた。伝えたい気持ちが強いと口語が多くみられた。
	○活動の振り返り 職業 高1段階イ(イ)㊦ 〔思考・判断・表現等〕	担当した作業内容を振り返り、「できたこと」「次の目標」を書くことができる。	○	できたことや気を付けたことを書くことができた。次の目標は教員と決めた。
	○清掃活動 職業 高2段階Aア(イ) 〔知識・技能〕	時間内に担当作業を完了できる。	◎	時計やタイマーを確認しながら行っていた。
Q	○清掃活動 国語 高2段階ア(カ) 〔知識・技能〕	仲間や教員、場に合わせた敬語を使うことができる。	○	気持ちが焦ってしまうと普段の言葉になっていた。
	○活動報告・振り返り 職業 高2段階イ(イ)㊦ 〔思考・判断・表現等〕	振り返りの結果について「なぜそうなったのか」の理由を加えて書くことができる。	△	行動と理由が正対していなかった。
	○清掃活動 職業 高1段階Aア(イ) 〔知識・技能〕	周りの動きに合わせて準備や作業を行うことができる。	△	準備や移動に時間がかかり作業開始が遅れた。
U	○清掃活動 国語 高1段階ア(カ) 〔知識・技能〕	作業や体調の相談や作業状況の報告を「です」「ます」を使って行うことができる。	◎	必要な敬語を使って報告ができた。聞き取りやすい速度で話すより伝わった。
	○活動報告・振り返り 職業 高1段階イ(イ)㊦ 〔思考・判断・表現等〕	担当した作業内容を振り返り、次回の課題を明確に書くことができる。	○	担当した内容やどう行ったかは書けたが、課題は教員と考えた。
	○清掃活動 職業分野 中2段階Aア(イ)	作業全体の中で自分の役割を理解し作業を行うことができる。	○	担当清掃について、教員に確認をしながら、行っていた。

○清掃活動 国語中1段階ア(カ) 〔知識・技能〕	「です」「ます」を使って報告や連絡ができる。	○	身近な大人（教員）には、敬語を使って報告ができた。
○活動報告・振り返り 職業 高1段階イ(イ)㊦ 〔思考・判断・表現等〕	清掃活動で「何を」「どのように」を選択肢から選び活動を振り返ることができる。	○	教員が例えを読み上げると選ぶことができた。

3 フレームワークを用いた指導の実際

(1) 指導の実際と学習評価

【導入】

導入では、テーマである「仲間と協力をして時間内に担当場所の清掃を行おう」についての、作業内容、目標、作業場所や注意点などの説明をスライドで使って行い、見通しをもって取り組めるようにした。



【展開】

本時の K の目標は「作業全体の中で自分の役割を理解し作業を行うことができる」であり、自分の行う内容（役割）を理解するために作業工程を分担する活動は重要な工程であった。K は、チームリーダーに促されると「玄関ホール」と自分の担当したい場所を言葉で伝えることができた。しかし、道具を一人で揃えて教員に報告する場面では、道具を一つ持ってくるごとに教員に確認を求めている。教員が一つ一つの道具の名前を言うと、言葉かけに応じて道具をそろえることができた。そのことから清掃に必要な道具の理解は不十分だったと考えられる。清掃活動はリーダーや計時係の声かけで場所を分担したり、時間を把握したりして行った。教員は巡視しながら生徒一人一人の目標達成に必要な指導や助言を必要に応じて行った。また、自分の役割が終わった生徒は、同じ班の仲間に声をかけ、作業状況を直接確認するようにした。班で担当した全ての清掃が終わるよう、終わっていない清掃を依頼したり、引き受けたりしながら協力して活動を行うようにした。また、清掃活動の中でも、教員や仲間と必要な連絡や報告を言葉で伝える場面を設定した。

U の清掃場面での目標は「周りの動きに合わせて準備や作業を行うことができる」「作業や体調の相談や作業状況の報告を『です』『ます』を使って行うことができる」であった。U の清掃担当は玄関で、モップ清掃を行ったが、道具の準備に時間がかかり、次に行う予定だったスリッパ拭きの仕事を終わらせることができなかった。一方で、教員への報告は聞き取りやすい丁寧な言葉で行うことができていた。



【振り返り・まとめ】



活動報告の振り返りでは、再び班のリーダーが主導しながら班ごとに清掃状況の確認を行い、班として受け持った場所の清掃を終わらすことができたか振り返り、教員に報告した。その後、個人の実態に応じた書式で振り返りシートの記入を行った。Bの振り返り場面での目標は「『できたこと』『課題』を明確に書くことができる」であったが、できた作業について記述できた一方、できていなかったモップ清掃の作業まで「できた」と記入してしまっていた。そこで、教員と一緒に実際に行った作業を順に確認していくと「モップはできてい

なかったです」と正しく記入し直すことができた。次時の課題については、「今回終わらなかったところ」を中心に記入するようにした。

(2) 学習評価をもとにした指導の振り返り

本時の共通目標は、

職業 ・自分の役割を果たすことができる。【ア 勤労の意義 (イ)】

・担当した作業について振り返ることができる。【思考力 (イ) ⑦】

国語 ・社会生活(職業生活)における場面に応じた言葉の使い方ができる。【知識及び技能 ア(カ)】であった。

個人の学習評価を行った結果、職業か国語いずれかの個人目標が未達成の生徒が多く、本時の共通目標は未達成と考えられる。個人の目標が未達成になってしまった理由としては、まだ場所に適した清掃の方法を覚えていない、準備や活動に時間がかかっている、言葉遣いが適切ではない等が挙げられた。本単元の学習の中で達成されることが期待される。

学習評価を行ったことで、前単元の目標の未達成が、本時の目標の達成に至らない理由の一つであることが分かった。前単元の個人目標が達成できていない場合、次の単元での取り組みに影響が出る可能性があると考えられる。達成できなかった目標の継続の仕方、扱い方等が課題だと考える。

一方で、繰り返しの活動の中で改善が見られていることから、経験不足も要因の一つであり、目標達成のためには今後も目標や活動を継続し経験を積み上げる必要があると考える。

また、本単元の生徒のテーマは「仲間と協力をして時間内に担当場所の清掃を行おう」であったが、個別の目標が達成に至らないことから、仲間と協力するという段階に至らない生徒が多かった。生徒たちの実態から、目標は継続しつつ単元計画の時数を増やし、繰り返しの作業の中で経験を積む必要があると考える。

4 フレームワーク活用の成果と課題

■ 授業の学習内容の整理

【成果】

- ・これまでの作業学習の目標は、多くが「職業」の教科の目標と一致しており、作業学習の中心となる科目が「職業」であることを改めて確認できた。
- ・個別の目標だけではなく、共通目標においても各教科等の目標を立てたことで、個別の目標との整合性を取りやすくなった。
- ・個別の目標を教科の目標で立てたことで個人が得た教科の力が明確になった。
- ・学習指導要領の該当段階の各教科等の目標をベースに目標設定を行うことにより、目標達成時の次の目標が設定しやすくなった。
- ・フレームワーク作成の段階で中心となる各教科等を整理したことにより、該当する各教科等の目標に応じた指導の言葉かけ等が明確になった。

【課題】

- ・本時の共通目標を各教科等の目標にしたことで「作業学習の目標＝教科の目標」になってしまったように感じた。結果として、目標が多く包括的な言葉になり、生徒に示す共通目標としては分かりにくくなった。
- ・本時の各教科等の目標を絞ったことにより、扱わなかった各教科等の内容をどこで扱うか検討が必要になった。
- ・1 授業単位で教科の目標立てを行ったため、網羅的な学習内容になるかは不透明だった。網羅的に目標だてを行うのであれば、年間指導計画から考えるフレームが必要である。
- ・各個人の各教科等の段階を把握する時間が必要だと感じた。
- ・達成できなかった目標に対して次の目標設定をどうしていくか検討が必要である。

■ 学習評価

【成果】

- ・評価規準を設けることで、どのように評価するのかという視点が生まれた。
- ・評価規準を明確にすることで、指導支援の仕方が明確になった。

【課題】

- ・評価規準が一つ一つの目標ごとであり、その全てを毎時間明文化することは労力がかかる。
- ・予め明確な評価の尺度を設定しないと、評価する人によって評価が変わる可能性がある。
- ・各教科等で立てた共通目標は修得すべき目標なのか、履修で良いのか、それによって学習評価が変わってくる。
- ・共通目標と個別の目標の学習評価の整合性をどう考えるかという点に難しさを感じた。共通目標の評価をどう考えていくかの検討も必要かもしれない。
- ・各教科等の全体計画がないと共通目標が場当たりのになる。3 作業班の計画、3 年の計画があつてこそ、各教科等の共通目標が合わせた指導でも設定できる。
- ・学習評価をどう生かすか今の段階では決まっていない。規準を満たさなかった時に履修だけで終わってよいのか、再履修するのか、目標設定を誤っていたのか、手立てが間違っていたのか等の振り返りの仕方や授業改善につながる流れを考えていく必要がある。

Ⅲ 研究のまとめ

1 フレームワーク活用の成果

1-1 学習内容の整理から得られた成果

高等部では、「各教科等を合わせた指導（以下、合わせた指導）」である作業学習における学習活動を、各教科等の目標・内容から整理した。その結果、成果として次の三点が得られた。

(1) 取り扱う各教科等の目標・内容の明確化とその効果

他学部と同様に、高等部でも、作業学習をはじめとした「合わせた指導」において、各教科等の目標・内容をどのように扱っているのか明確にすることに課題があった。

本研究では、学習指導要領を参照しながら、学習内容の分析・整理、目標・評価規準の設定を行うフレームワークに取り組んだことで、学習活動で取り扱っている各教科等の目標・内容が明確になり、授業の中でどのような教科のどのような分野を合わせて指導しているかを見直すことができたという報告が挙げられた。また、これまでの実践を振り返った結果、作業学習では、想定していた以上に様々な各教科等の目標・内容を取り扱っていることへの気づきも報告された。また、作業学習で取り扱っている各教科等の目標・内容が明らかになることで、作業学習における学習内容を学部全体で共通理解したり、各教科等の学習内容をより明確に意識した学習活動を設定したりできたことも報告された。

これらの報告から、フレームワークを用いて、作業学習における作業活動・学習活動の分析・整理を行ったことが、作業学習で取り扱う各教科等の目標・内容の明確化に有効だったことがわかる。さらに、学習活動で取り扱う各教科等の目標・内容の明確化は、生徒らの学習内容を明らかにするだけでなく、学習活動の見直しや教員間で学習内容を共有することにもつながったといえる。

(2) 作業学習における「職業」とその他の教科との関連の明確化

これまでは、作業学習では、将来の職場での生活に必要なとされる能力について、個々の生活上の課題や発達段階などの実態をもとに目標設定をしてきたが、学習指導要領に示される「職業」の目標・内容をどのように扱っているかは明確にできていなかった。

本研究では、学習内容を整理したことで、作業学習で取り扱っている「職業」の目標や内容を明らかにすることができたことが報告された。また、作業活動を通して、「国語」「数学」等の目標・内容を体験的な学習を積み重ねることで身に付けたり、「職業」の学習内容と「国語」「数学」「理科」「家庭」等の「職業」以外の目標・内容を関連付けながら指導していることも明らかになった。

また、作業活動におけるコミュニケーションの指導では、その指導内容を、学習上のねらいから、「国語」の「話すこと・聞くこと」の目標・内容と、「職業」の「職業に向かう態度等」の目標・内容に整理できたことから、それらの目標・内容についての教科横断的な関連性に気づくことができた。実践報告では、「国語」の「話すこと・聞くこと」の目標・内容である「敬語の習得や相手を意識した話し方」は、「職業」の「職場で求められる作業態度（言葉遣い、報告、相談等）」と関連付けることができ、作業活動を通してより体験的・実践的に学ぶことができるのではないかという意見も見られた。

これらのことから、「合わせた指導」である作業学習において、その学習内容を明確にすることにより、中心となる「職業」の目標・内容と他の教科等の目標・内容との関連を教員が意識した指導や学習活動を設定できるのではないかと考えられる。

(3) 目標・内容の段階間のつながりへの意識

学習指導要領を参照して学習内容を整理し、各段階を参考に生徒の目標を検討する中で、個々の段階に応じた目標設定の重要性に対する気づきが報告された。例えば、中学部2段階の目標・内容を目指す生徒が、その目標・内容を達成後、高等部1段階のどのような内容を目指すのかを意識したり、そのため目標を設定したりするなど、小学部3段階・中学部2段階・高等部2段階の各段階間のつながりが意識されやすくなったことが考えられた。

本研究を通して、学習内容を学習指導要領に示された各教科等の目標・内容から整理し、各段階のつながりを意識しながら、個々の生徒の実態に応じて目標を設定していくことの重要性を改めて確認することができた。

1-2 学習評価に関する成果

「合わせた指導」である作業学習において、各教科等の目標・内容に関連して目標設定、学習評価を行ったことで、次の三点の成果が得られた。

(1) 実態に応じた適切な目標設定とその評価

各教科等の目標を設定する際に必要となるのが、個々の生徒の各教科等における目標・内容の習得状況を把握することである。これまでは、個々の生徒の学習状況について、学習指導要領で示された各教科等の目標・内容に対応する形では把握・記録をしてこなかった。本研究では、学習活動で取り扱う各教科等の目標・内容に対し、学習指導要領を参照しながら目標を設定したことで、個々の生徒が具体的にどの段階にあるのかを確認できたことが報告された。また、その目標に対する学習評価によって次の目標が明確になったり、教員の指導の工夫につながったりしたことも報告された。

本研究で作成したフレームワークは、学習内容の分析・整理だけでなく、個々の生徒の各教科等における目標・内容の段階を明確にし、実態に応じた目標設定を行うことにも有効であると考えられた。また、実態に応じた目標に対する評価をすることは次の段階の目標を設定しやすくし、指導の改善にもつながると考える。

(2) 評価規準を明確化した評価

本研究で作成したフレームワークでは、各教科等の目標・内容について、個々の生徒の具体的な姿を明文化した評価規準を設定した。それにより、その評価がどのような学びに対する評価なのかを明確にすることにつながった。また、評価規準の明確化は、授業者である教員間でその評価規準を共有しやすくし、目標設定・評価のしやすさにもつながったことが報告された。

一方で、評価規準に対する達成度をどのように測るか、これまでの「評価基準（もとじゅん）」に当たる評価の尺度が不明確であることから、評価する教員によって達成度の判断が異なってしまう可能性がある事を不安視する報告もあった。今後、評価規準の設定と合わせて、その達成度をどのように見とるかについても検討していきたい。

(3) 学習評価に基づく指導評価や授業評価

高等部のフレームワークでは、共通目標を各教科等の目標・内容から設定し、個々の評価規準を具体化したことで、評価の視点や学習評価が明確になった。これにより、どのような指導・支援が有効だっ

たか振り返りやすくなり、指導評価や授業評価につながったことも報告された。

このことから、学習活動における学習内容の分析・整理、目標・評価規準の明確化は、学習評価の改善につながり、その学習評価に基づく指導評価、授業評価にも有効であると考えられる。

2 今後の課題

2-1 フレームワークの課題

本研究で作成したフレームワークについて、以下の二点の課題が挙げられた。

(1) 評価規準の表記の仕方

本研究では、「合わせた指導」の学習活動について、各教科等の目標・内容から整理し、その評価に焦点を絞ってフレームワークを作成したため、指導の振り返りに取り組みやすくなった。しかし、特別支援教育では、学習活動において生徒の実態に応じた支援・手立てが行われる。また、目標達成に至るステップや生徒に求める達成度合いも個々に異なる。そのため、学習評価についてもその支援・手立てを踏まえて、学習状況を評価することが必要だと考える。今回のフレームワークでは支援や手立て、取り組む姿勢等の内容について、特記事項に記入したり、評価規準を具体的に立てたりすることで伝えられるようにしたが、伝わりやすさ・見やすさには課題が残った。今後、「支援・手立て」欄の設定や、個々の目標の達成度の明示の仕方について検討していくことで、フレームワークをより良い学びにつなげる情報共有ツールとしても活用していくことができるのではないかと考える。

(2) 目標の達成度の見取り方

各目標を「◎○△」の記号の3段階で評価するにあたって、その達成度を判断する尺度を明記する欄がないことについての意見が見られた。実践においては、授業者間で評価規準とその達成度の見取り方について共通理解を図った上で評価を行った。しかし、複数の教科等の評価を見取る必要がある場合に、目標の達成度を判断する尺度について、口頭ですべて伝えることには難しさがあったことも報告された。そのため、達成度を判断する尺度の内容を文章で明示する必要があるのではないかという意見も見られた。また、第三者にも評価の根拠がわかるようにするためにも、これまでの「評価基準（もとじゅん）」にあたるような目標の達成度に関する尺度をフレームワークに記載する欄を設ける必要があるのではないかという意見も見られた。

今後、授業の分析や学習評価を行う上で、今年度作成したフレームワークの活用を考えたとき、その改善点として目標の達成度をどのように見取るか、また、フレームワークの記載内容等についても検討が必要だと考える。

2-2 教育課程の課題「合わせた指導」で取り扱う各教科等の目標・内容の整理、指導計画の必要性

本研究に取り組む中で、教育課程の課題も明らかになった。

現在の教育課程では、各教科等の目標・内容について、どの目標・内容をどの指導形態でどう扱うのかが見えにくく、明文化されていない現状がある。本研究では「作業学習」についての検討を進めたが、生活単元学習など、それぞれの指導形態の特色を踏まえて、各教科等の目標・内容をどの指導形態で指

導するのかを整理する必要性を指摘する意見が多数上がった。

高等部では、「合わせた指導」の特長を、多様な学びの機会や学習場面を展開し、生徒の知見や可能性を広げることが期待できること、そして、体験的な学習活動に繰り返し取り組むことで、各教科等の目標・内容について実際の生活で活用していく力を身につけられることだと考えている。

各指導形態において取り扱う各教科等の目標・内容が整理されれば、指導形態間の学習内容の偏りをなくし、教育課程全体で学習内容のバランスを取ることができるようになり、個々の学びの段階に応じた学習内容を適切に取り扱うことにつながるだろう。また、作業班において、それぞれの作業活動で取り扱う各教科等の目標・内容を整理することで、3年間の作業学習で学習する内容について学部内で共通認識を図り、それぞれの作業班の特長を活かした授業づくりにつなげることもできるようになるだろう。学部間の系統性や授業のつながりを生かした指導のためにも、本研究と連携した教育課程の見直し・改善が必要だと考える。

2-3 単元計画・評価計画の作成に向けて

今年度の研究の成果と課題を踏まえ、来年度の研究では単元計画・評価計画の作成に取り組んでいく予定である。来年度の研究内容や方向性について挙げた意見は以下の三点である。

(1) 体系的・組織的な学習内容の構成

来年度の方向性として、単元単位で体系的・組織的に学習内容を構成していくことが必要だろう。

各教科等の視点から単元を計画するにあたってはまず、「合わせた指導」でどの教科等のどの目標・内容を扱うのかを整理する必要があると考えられる。また、「職業」と「国語」の目標・内容の一部に教科横断的な関連性への気づきが見られたように、学習内容の整理には、各教科等の目標・内容、さらに各教科等を横断する学習内容の関連を考えることが必要である。「合わせた指導」である生活単元学習や作業学習における学習集団ごとに、実践を通して学習内容の整理を行い、どの指導形態のどのような単元で、どのような学びを目指すのか、そのためにどのような各教科等の目標・内容を取り扱うのかを明確にしていくことで、体系的・組織的に学習内容を構成し、生徒らの確かな学びを育む授業づくりにつながるのではないかと考える。

(2) 共通目標の設定の仕方

高等部では、授業で取り扱っている内容を分かりやすくするために、学習指導要領に示される各教科等の目標・内容を基に共通目標を設定した。

その結果、何を学ぶ活動なのか明確になり、個人目標の設定がしやすかったという報告があった。しかし一方では、個々に設定する際に生徒の実態によって段階が分かれ、個々の課題に合わせて目標設定するために評価の観点が様々に広がっていき、共通目標とのつながりがわかりづらくなってしまったという意見もあった。共通目標の設定の仕方について、学習集団としての実態把握をした上で共通目標を設定するのか、共通目標を設定した上で個々の段階を探って設定していくのかということについても、検討する必要があると考えられる。

来年度の研究では、単元計画を扱うため、単元を通してどのように目標を設定するかについて、今年度の課題等を踏まえて検討していく必要があるだろう。

(3) 各教科等の目標・内容についての習得状況の把握

「合わせた指導」の学習に含まれる各教科の内容を明確に整理する試みは今回が初めてであり、最も時間を要したのは、個々の生徒の各教科等の目標・内容についての習得状況について学習指導要領に照らして確認することであった。

本研究では1単位時間の目標設定のための実態把握を行った。来年度は単元を単位として学習内容やその評価について検討していく。そのため、今年度以上に、個々の生徒の各教科等の目標・内容における習得状況の把握や、その記録が重要になると考えられる。個々の生徒について、見取った実態や学びの履歴を記録する方法、また、個別の指導計画における評価との関連など、書式の検討も進めていく必要があるだろう。

IV 資料

【合わせた指導の学習を考えるフレーム案】

(1) 単元観

--

(2) 単元計画

	学習活動	中心となる各教科等の内容
1次 (○時間)		
2次 (○時間)		
3次 (○時間)		
4次 (○時間)		
5次 (○時間)		

(3) 単元の目標

共通目標	
A	
B	
C	
D	
E	

(4) 本時の共通目標

--

(5) ①本時の学習活動・学習内容

学習活動

中心となる各教科等の内容

②個別の目標・評価規準

	学習活動	個別の目標・評価規準	評価	特記事項 (個別内評価含む)
	・個別の教科等の内容・段階			
A				
B				
C				
D				
E				